

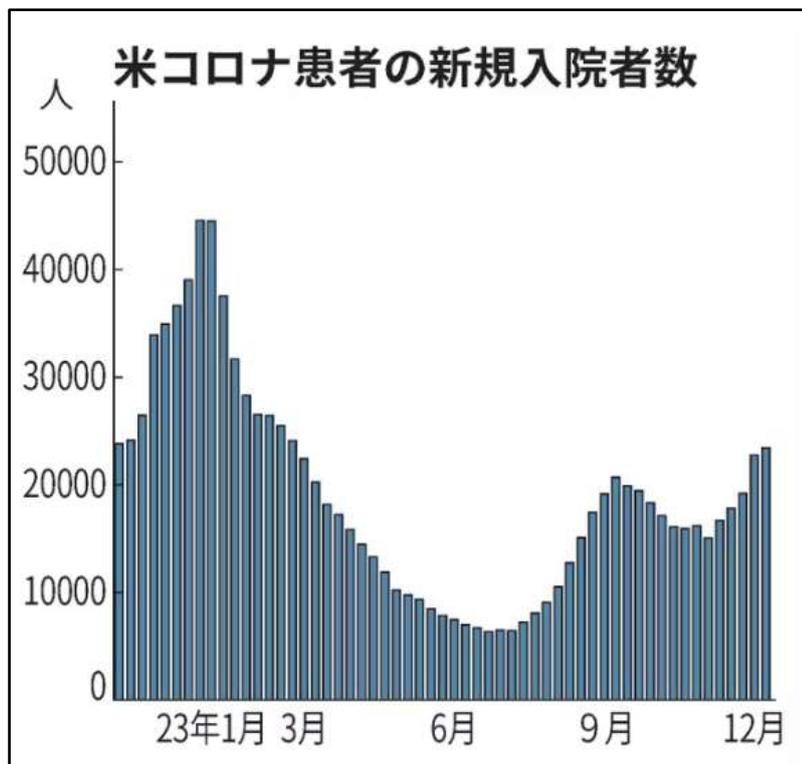
米国コロナ感染6割増 進まぬワクチン接種、有料化響く

2023/12/19 日本経済新聞

【ニューヨーク=西邨紘子】米国で新型コロナウイルスやインフルエンザ、RS ウイルスなど呼吸器系感染症が急拡大している。米疾病対策センター（CDC）によると、12月上旬のコロナ新規入院患者数は1カ月前と比べ6割増えた。感染が広がる一方、ワクチンの無償提供の終了などで接種が進んでいない。米当局は重症患者が増えれば医療逼迫が起こる可能性を指摘している。

CDCの最新の発表によると、12月9日までの1週間のコロナ新規入院患者数は2万3432人で、5週連続で前の週を上回った。患者数は約1カ月前の11月4日の週と比べると56%増えた。重篤化するケースも増えており、コロナとインフル、RS ウイルス感染で救急治療にかかった割合は3つの感染全体の5.3%と、約1カ月前の2.7%から上昇した。

冬は乾燥するほか、11月下旬の祝日であるサンクスギビング（感謝祭）前後の休暇時期で



外出や旅行が増えるため感染が広がりやすい。昨年12月末にコロナの入院患者は週間で約4万5000人まで増えている。

州別の呼吸器系感染症の流行をみると、全米のうち18州で流行が「活発」もしくは「特に活発」となっている。特に南部で感染が広がっており、ルイジアナ州とサウスカロライナ州は最高レベルの分類となっている。

米国ではインフル、RS ウイルスのワクチンに加え、9月にはコロナの追加接種の提供も始まった。だが感染が拡大している12月2日時点で、コロナ追加接種の接種率は18歳以上で17.2%、重症

化リスクが高いとされる65歳以上でも36%にとどまっている。RS ウイルスワクチン（60歳以上で推奨）の接種率は15.9%と低水準だ。インフルワクチンの接種率は58.6%と前年を3ポイント程度下回っている。

コロナワクチンの接種率の低迷は、5月にコロナの緊急事態宣言が解除され、接種の無償化が終了した影響がありそうだ。医療機関での接種の呼びかけや周知が遅れているとの指摘もある。

コロナワクチン主要メーカーの米ファイザーは今年、2024年12月通期のコロナワクチンと治療薬の売上高について、22年のピークの6分の1に落ち込むとの予想を発表。感染動向がワクチン需要の底上げにつながっていないという。

CDCは14日、感染拡大が医療逼迫を引き起こす可能性があるとして、医療関係者に積極的にコロナ、インフル、RS ウイルスのワクチン接種を患者に推奨するよう呼びかけた。